

田中三津彦議員



- 市内の若者の自衛隊入隊について
- 28年度実施予定の防災訓練について
- 道の駅の開業時期前倒しについて

一般質問

**問** 今春、市内の3名の若者が自衛隊に入隊されるが、前途有望な若者が国民の生命、財産を守り、国際社会の平和、安定に貢献しようという志を持ち、厳しい道を選択したことに対して市長の見解を問う。

**答** 国民の生命・財産を守り抜くための自衛隊の活動は、ますます重要になっていく。さらに、PKO活動など国外にも活動の場を広げ、国際社会の平和と安定に積極的に貢献している。また、災害派遣では、東日本大震災で人命救助に自衛隊員が不眠不休で活動する姿が、自衛隊に対する国民の認識を大きく変えた。勝山市でも、平成16年2月7日に発生した関西学院大学生の大長山遭難事故では、航空自衛隊の活躍なしでは救助できなかったかもしれない。

**問** このような理解のもとで勝山市の3名の若者が、職業として自衛隊を選択したことに賛辞を贈る。先般、公室での激励会でも立派な自衛官となるよう前途を祝福した。

**答** 訓練の概要を説明されたい。特に市職員の訓練については、その意識と対処能力向上のため、実践的な訓練を望むが如何か。

**問** 実施し、市街地を流れる大蓮寺川の氾濫を想定した水防訓練に110名、荒土地区と平泉寺地区の住民避難訓練等に741名が参加した。そのほか、災害ボランティアセンターの設置運営訓練や安否確認訓練等を実施し、市民、市職員も含め勝山市全体の防災力の強化が図れたものと考えている。また、新型インフルエンザに関する、国の緊急事態宣言からの情報連絡体制と市内各部署での役割等の再確認を目的とした新型インフルエンザ等対策訓練を実施した。

**答** 平成28年度においても災害対応力の強化を目的とした総合防災訓練をはじめとした各種訓練を実施するほか、非常用電源設備や簡易トイレなどを購入し指定避難所の資機材を強化する。

**問** 市の構想は立ち上がりから既に5年。開業は4年後とスピード感に欠ける。2年後の福井国体に間に合うよう、開業を前倒しすべき。

**答** 平成28年度に県の審査を経て、最短でも平成29年度社会資本総合整備交付金の採択を受ける予定となる。今後は県の担当部局だけでなく、関係する様々な部局へも要望し、開業時期の短縮に向けて努力していく。

松山信裕議員



- ジオパークについて
- 白山平泉寺について
- 「共生社会」インクルーシブ社会について

一般質問

そのほかの質問  
・女性主体の防災訓練について

**問** 勝山ジオパーク再認定と今後のビジョンについてどのように考えているか。

**答** 勝山市全域がエリアとなっており、恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークは、平成21年10月に日本ジオパークネットワークの加盟認定を受け、平成25年12月に再認定審査を受けた。

**問** その再認定審査では、「条件付き再認定」という結果となった。その後、課題を改善するにはどのようなすべきかを、勝山市ジオパーク推進協議会の構成団体、勝山市エコミュージアム協議会の皆様と進むべき方向性を議論した。

**答** また、まちづくり団体の皆様には、エコミュージアム活動を基盤としたジオパークによるまちづくりを行うことを、何度も説明することと理解をいただいた。更に、まちづくり課のジオパークを取り込む意思を、ジオパークまちづくり課の設置により明確にした。その結果、日本ジオパークネットワークへの加盟再認定を受けることができた。

**問** エコミュージアムによって築かれてきた市民力と地域力をジオパークによってさらに発展させ、ふるさとに高く掲げていきたい。

**答** 平成29年は素彦が717年、養老元年に平泉寺を開かれてから1300年の年を迎えることとなりますが、

**問** 開山記念事業についてどのように考えているか。

**答** 白山開山1300年に関係する自治体などでは白山に関する講演会や展示など三馬場をめぐるバスツアーなどを検討中であり、勝山市では、共同PR用ポスター制作や、共同イベントの実施について関係者と相談しながら1300年を盛り上げたい。また、平泉寺らしいイベントも考えたい。

**問** ①勝山市のインクルーシブ教育の現状と今後の展望について、どのように考えているのか。②発達障害の子どもたちや保護者への支援体制の充実を図るべき。

**答** ①現在、教育現場において本人および保護者の意向を最大限尊重した取組に努めている。今後も障害の有無にかかわらず、地域社会の一員として、様々な人と交流し主体的に社会参加しながらか、心豊かに生きていけるようなインクルーシブ社会の構築を目指す教育に力を入れていきたい。

②特別支援教育コーディネーターと呼ばれる教員等が校内の支援体制を整え、必要な場合には外部機関との相談調整を行うなど、児童生徒にとつて最も適切な指導や支援方法の工夫に努めてきた。保護者への支援においても同様、十分な情報提供し学校との共通理解を進めていく体制を整えている。